

★甲府21クラブ・アデレードクラブのIBC締結

国際・交流事業主任 米長 晴信(甲府21)

2020年11月14日、甲府21クラブが創設30周年記念例会において、オーストラリア区のアデレードクラブとのIBC契約を結んだ事を報告いたします。

【経緯】昨年7月に仙台で開催されたアジア太平洋地域大会にてエクスカーションでオーストラリア区の皆様と一緒する機会があり、その後その時のお礼などのやり取りをメールで交わす中でIBC締結を結ぶという議題にまで発展。代表してやりとりを行ったのは直前国際会長のジェニファー・ジョーンズ氏と私(クラブ次期会長)。その後1年余りのメールのやり取りで各クラブメンバーへの周知やいつ、どのような形で締結式を行うか相談し、甲府21の30周年記念例会の席でzoomによるリモート形式で行うことを決定。

【コロナ社会ならではの形式】締結式はzoomによるリモート形式で行われました。つなげた会場は3カ所。甲府(甲府21の30周年記念例会会場、カメラは3台)、アデレードのジョーンズ宅(メンバー10人程度参加)、オーストラリア区代表立会人のムレイ・ステューブンス氏宅(自宅単独)。ステューブンス氏はアデレードから700km離れたバララットという街で3ヶ月ロックダウンされているとの事でしたが、zoom形式で行うため式典への参加が可能となりました。

締結書は、本来のようにその場で3人(両クラブ会長と国際事業主任)がサインするということができないため、アデレードの会長のサインした締結書を事前にメールで送っていただき、甲府の会場にて甲府21の興水会長、利根川国際事業主任がサインをして完成しました。

バナーと記念品の交換はできないため、それぞれ自分の用意したものを画面にて披露。両クラブとも近郊がワインの産地なのでそれぞれ自慢のワインを記念品にしました。

【総括】利根川国際事業主任によると今年度にIBC締結をしたのは今回で5組目ですが、実際に締結式の会場に利根川主任が足を運べたのは初めてで、とてもよかったとコメントをいただきました。私も東日本区の事業主任としてたまたま自分の所属するクラブの締結式を経験する事ができ、今後の区内のIBC締結をより一層サポートし易くなりました。

課題としましては、zoom形式を活かして、より多くの方に傍聴していただく形で開催する方法を確立して行きたいと思っております。当事者でない方の顔がたくさん画面上にあると式典として成立しませんが、zoom画面上には式典のものだけが映り、傍聴者は画面に映らないようにする方法もあり、それをうまく活用して行きたいと思っております。

今回、YMCA 同盟の光永尚生東西日本区担当主事にzoomのアカウント、zoom会議用のカメラ、スピーカ・マイクを提供していただき、会場にて作業の全面サポートをいただきました。光永主事のお力なしではこの式典を行う事ができませんでした。改めて御礼申し上げます。事業主任として私が掲げた今年度のIBC締結目標は7組です。コロナ社会においてむしろIBCを探す、あるいは懇親を深める事がし易い環境であるという面を最大限活かし、目標を達成できるよう皆様のご協力をお願いいたします。

2020-21理事通信6号より

YMCA便り

YMCA 野の花保育園 園児絶賛募集中

山梨YMCA 総主事 露木 淳司

マタイによる福音書の6章に「野の花がどのように育つのか、注意してみなさい。」というくだりがあります。栄華を極めて着飾る王様より可憐な野の花の方が美しい、という意味のようです。「明日は畑に投げ込まれる野の草でさえ、神はこのように装ってくださる」と続き、人はみなそれぞれ持って生まれた姿かたち、人格があり、一人ひとりが素晴らしい個性であり、神さまに祝福されています。ありのままの自分を愛し、個性豊かに自信をもって生きていこう、というメッセージとして受け止めたいと思います。

どんなに気に入った服を手に入れても、いつしか飽きが来て、違うものを求めるようになります。でも、野の花は「今日は赤だったけど明日はピンクがいいな」とは言いません。赤だった自分が赤じゃなくなれば、もはや自分というものはどこに行ってしまうのでしょうか。2020年の春完成したYMCAの保育園は、こうした思いを込めて「野の花保育園」と名付けました。多様な個性という服を着た幼な児たちが、YMCAという野原の中で、高齢者や外国人の人、障がいのある人と、ごく自然に日常的に触れ合い、のびのび、いきいきと育っていく姿をイメージしてつけた名前です。実はこの野の花の聖句は、1948年賀川豊彦氏が山梨に来た際にYMCAに残していつか書に記されて、今も新しく建ったYMCAの会館の正面玄関に掲げられています。

ただいま0,1,2歳の園児、絶賛募集中です。親戚、ご近所、お知り合いの方で、対象になる方はいらっしやいませんか。甲府市街の方でも大歓迎です。60年の歴史を積み重ねたつぼみグループの保育理念をそのまま受け継いだYMCAならではの保育施設です。ぜひともご紹介いただければ幸いです。



《12月の誕生者》Happy Birthday!

Men	Menette	敬称略
葉袋 勝 15日	寺田岸子 7日	
茅野 崢 17日		
饗場 裕 20日		

THE SERVICE CLUB OF Y.M.C.A.
THE Y'S MEN'S CLUB OF KOFU 21

2020年12月22日(火) 発行

〒400-0032 山梨県甲府市中央3丁目10-7
山梨YMCAグローバルコミュニティセンター
☎055-235-8543 fax055-235-8553
Mail kofu21@googlegroups.com

- 国際会長主題：“VALUES, EXTENSION and LEADERSHIP” Jacob Kristensen (デンマーク) スローガン “TRUST IN THE RIVER OF LIFE”
- アジア太平洋地域会長主題：“Make a Difference” David Lua (シンガポール) スローガン “INSPIRE”
- 東日本区理事主題： 変化を楽しもう！ “Let's enjoy Changes” . 板村哲也 (東京武蔵野多摩) 副題 助け合い、分かち合い Let's help and share each other.
- あずさ部長主題：変わるに挑戦！ Challenge to Change. 御園生好子 (東京サンライズ)
- 甲府21クラブ主題：『それぞれのプラス1を』 興水 順雄

甲府21ワイズメンズクラブ
2020年12月会報
ワイズの理解
ファミリーファースト

〈今月の聖句〉

光は暗闇の中で輝いている。暗闇は光を理解しなかった。

ヨハネによる福音書1章14

今日ダビデの町で、あなたがたのために救い主がお生まれになった。この方こそ主メシアである。ルカによる福音書2章11

会長挨拶

甲府21ワイズメンズクラブ 会長 興水 順雄

アデレード・バロッサバレーのワインの香りを楽しみながら、思いは南半球に飛んでいます。美味しいワイン、美しい街、四季のある豊かな自然。アデレードクラブとのIBC締結がワイズライフの楽しみを増やしてくれました。

今にして思うと、コロナ禍の中で「創立30周年記念例会」を開催できたことは幸いでした。佐藤重良実行委員長のもと、素晴らしい記念誌・DVDを制作し、内容盛りだくさんの記念例会が開催できました。検温、会話なしの食事、マスクを着けての会話などコロナ対策は徹底しましたが、クラスターにならないことを祈っていました。

そうした中で、30年間勤賞の駒田勝彦メンを表彰、記念講演会は「ある感染症に勝利した甲府盆地の人々」をテーマに葉袋勝メンに語っていただきました。コロナも感染症であり、興味深い講演となりました。市川将来さん、小俣寛さんの入会式も行うことができました。

アデレードクラブとのIBC締結式は、国際協会、アジア太平洋地域、東日本区、あずさ部の皆さんに立ち会っていただき、リモートでアデレードクラブと行いました。このきっかけを作った米長晴信メンが、流暢な英語で司会・進行をしていただき思い出深い締結式になりました。

クリスマス例会、新年合同例会はコロナ感染拡大のため中止としましたが、状況次第ですができるだけ例会は開催したいと思います。



謹告

会員各位 30周年記念例会は開催出来ましたが、その後コロナウイルス感染第三波の様相になりました。度々の変更で申し訳ありませんがクリスマス例会(12月22日)、新年合同(1月12日)は中止致します。22日のクリスマス例会は飲食無しYMCAにて行う予定でしたが、大勢の出席者となり感染対策をしても万が一感染者が出た場合には、YMCAの行事に制約が出ます。新年合同例会はお互いのクラブの親睦を図る事も大きな目的ですが飲食を伴い、感染要因が懸念されます。会員の中には所属する組織の対応として大勢の人が出席する会合への参加を規制している例も有ります。それらを鑑みて中止と致しました。双方とも既に担当者が準備をされておりますがご容赦ください。

尚、1月の第2例会(1月19日)につきましては今後のコロナウイルス感染状況を確認しながら12月22日に役員会を開催して検討して行きます。御了承下さい。

役員一同

11月出席率	会員数	43名
例会出席者数	34名	その他行事
計		5名
出席率	39÷43=	91%

項目	ニコニコボックス	バザー収益金	クリスマスオークション	切手
目標値	250,000円	50,000円	50,000円	5,000g
11月の合計	41,223円	0円	0円	
11月末迄累計	130,175円	0円	0円	0g
達成率	52.1%	0%	0%	0%

最後のバザー
大澤英二先生、ありがとう

追悼

甲府 21 ワイズメンズクラブ
野々垣 健五

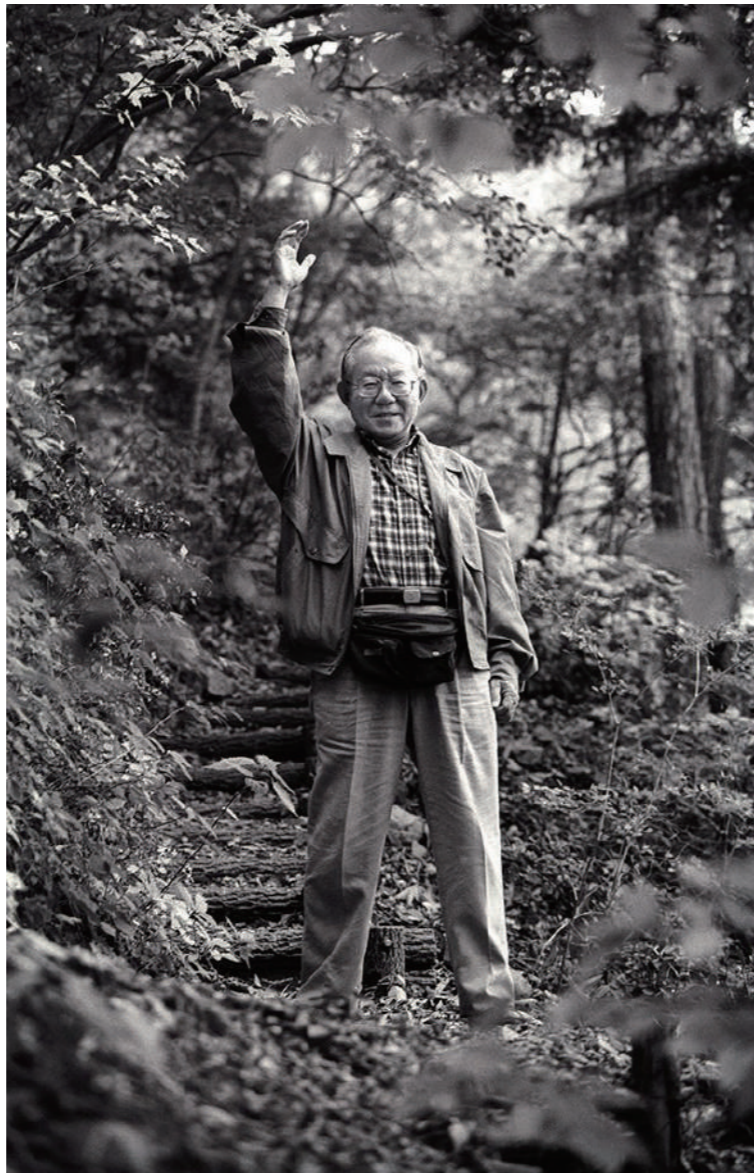
2020年8月6日、手術を終えた大澤先生。その後の入院生活は新型コロナウイルス禍で家族や見舞客との面会は許されず、術後の不調を抱えて、山梨YMCAへの寄付者の方々に向けて、お一人、お一人、その関係を確認しながら10通～30通のお礼状に一言とサインするのを毎日の日課とされていました。そして、10月23日(金)に半強制的に退院して、医師の長田先生のお世話になり、訪問による治療を始められました。一度、YMCA「オリーブの木」で100日振りのお風呂に入れてもらい、時間にして1分間の入浴でしたが、気持ち良く、疲れも出ずにすみました。

私は祥子先生と相談し、11月3日の新会館での「第60回バザー」訪問を、天気、気温に慎重に注意を払い、計画しました。当日、露木魁人さんの丁寧な運転で、車は10時半過ぎに山梨YMCAに到着。私はこの日が大澤先生の最後のYMCA訪問になるであろうと気持ちを引き締めて、大澤先生を車椅子にお乗せし、新会館北側のパーキングから皆さんがいるバザー会場へと車椅子を進めて行きました。

甲府21のパン売り場、小物、竹細工、古書、すっかり名物となった白菜や大根といった野菜売り場、又、ポインセチアがあり、菓子の福袋の売り場等が賑やかにありました。そして、皆さんの温かな、いっぱい笑顔があり、大澤先生の「よかった。いいハードは整った」と仰る感慨深げなお顔がありました。大澤先生は甲府21の皆さんの挨拶を受け、メインの売り場に行き、更に入口に回って、YMCAスタッフ、ポーター協会、ボーイスカウト、ウリ教会と挨拶をされました。兼重さんにはしっかりとご挨拶され、富士五湖クラブ、そして70年を共にした一番大事な甲府クラブの面々にお会いすることが出来ました。聖学院時代にみずかきに参加してくれた千葉の宮崎さん(竹細工を沢山提供してくれました。)の挨拶も受けられました。600人を超える方々が来てくれて盛大な賑わいを見せた「第60回バザー」を大澤先生に直

に見ていただき、又、多くの方々と会っていただけたことはバザー訪問の目的を何とか果たす事が出来、これも大澤先生が皆さんを集めてくれたんだと思っています。そして、現実となった大澤先生とお別れ。「お別れ会」には、何と600人の方々が来て下さいました。甲府21クラブの皆様、11月20日の「前夜式」、21日の「お別れ会」、強風の中、お手伝いをありがとうございました。時間のない中小澤智之さんは15分間のDVDで大澤先生を甦らせ、記憶に残してくれました。

新会館は“人と人の触れ合う場所”が大澤先生のモットーでした。先生のモットーをしっかりと受け継ぎ、目標として掲げ、成果を出していける様に更なる努力を重ねていくことを大澤先生にお約束致します。



Eiji Osawa at Misaka Pass in Yamanashi, 2004



zoomでアデレードクラブと繋がっています



IBC 奥水会長が署名



小澤智之メンによる国際中継



奥水会長により「英語の挨拶」



板村 東日本区理事より祝辞



IBC 締結書を持って記念撮影



懇親会にて草津クラブ 一井会長より祝辞



和やかな懇親会的一幕



佐藤委員長と駒田さんの入念な打合せ



「今月の聖句」 功刀 弘メン



樋口雄一甲府市長より祝辞



駒田さん 30年皆勤賞おめでとうございます



新入会 小侯メン 市川メン



御園生 あずさ部長より祝辞



葉袋メン「感染症に勝利した甲府盆地の人々」



IBC締結式 開式の言葉 清藤委員長

隣人愛に殉じた人

日本基督教団 甲府教会牧師 齋藤 真行

2020年3月末に、牧師として私は甲府教会に赴任しました。大澤英二さんのことは、赴任するずっと前からお名前をお聞きしていました。東京の神学校で宣教師として働き、現在アメリカのプリンストン神学校に戻っておられる先生から、「大澤英二さんと奥様によるしく！」とのメールを、赴任が決まった時に頂いていました。お会いする前から、大澤さんという方はなんとお顔が広いことだろう、と感じていました。

引継ぎのために初めて礼拝での奉仕にきたとき、礼拝後真っ先に話かけてくださったのも、大澤英二さんでした。ご紹介頂く前から、「この方がきっと大澤さんだ」と直感しました。赴任前から想像していた、明るい笑顔がひどく印象的だったからです。

赴任して近所の方にご挨拶したり、教会を訪ねてくる方々からお話をお聞きする機会が与えられました。その際も、「自分はYMCAで大澤さんにお世話になった」、「ボーイスカウトで大澤さんにご指導頂いた」といった方々に多数お会いし、そのおかげで自然とお話をする事ができ、初めてお会いしたのではないかのよう心を通わせることができました。

改めて、大澤英二さんはイエス・キリストが「最も重要な掟」(マタイ22:38)としてお教えになった「隣人を自分のように愛しなさい」という教えに殉じた方だった、と思い起こします。その大澤さんの隣人愛の働きを支えていたのは、奥様の祥子さんとご家族の皆様、また教会で共に神を仰ぐ信仰の仲間、共に働いた友である方々、そして永遠の愛をもって語りかけ続けてくださる神ご自身でした。

改めて大澤さんのご生涯を導いた愛なる神が、祥子さん、ご家族の皆様はじめ、英二さんと歩んでこられたお一人お一人と共にいてくださいますよう、お祈り申し上げます。





創立 30 周年 記念例会 岡島ローヤル会館にて

創立 30 周年記念例会報告

●甲府 21 ワイズメンズクラブ 寺田 喜長

日時 2020年11月14日(土) 11:00~

会場 岡島ローヤル会館

司会 古屋秀樹メン 奏楽 荻野優メネット

コロナ禍の中、開催規模を縮小し、あずさ部各クラブ1名の参加願いと制限の中、25名の来賓、ゲストをお迎えし、開催することができました。開会冒頭に、司会者よりコロナウイルス対策への協力を参加者にお願ひし状況をご理解いただく中で、興水会長の点鐘にて記念例会を開催、功刀メンは今の当クラブの働きにふさわしいと選ばれた聖句、「コリントの信徒への手紙—12章11節」を朗読、続いて12日にご逝去されました山梨YMCA名誉理事長大澤英二様のご冥福を祈り黙とうをお捧げいたしました。

興水会長の来賓、ゲストの方々への歓迎の挨拶と30周年記念事業として新しいYMCA会館3階ホールのバトン設置への資金協力をさせて頂いたと報告。ご臨席頂きました樋口雄

「2020年11月14日 祝福の中で、新しい仲間を迎え、IBC・アデレードクラブを得て、私たちは新たな一歩を踏み出しました。」

興水順雄

一甲府市長様、山梨YMCA総主事露木淳司様、東日本区理事板村哲也様より過分なご祝辞を頂戴いたしました。30周年特別表彰はチャーター依頼30年間皆勤されておられる駒田勝彦メンへの敬意を表し、賞状と記念の盾をお送りいたしました。日本区理事や、区の要職、あずさ部の部長や他の主査を務めながらの快挙です。ご本人はたまたま例会や行事が有るときに体調の良い時や、都合が良いタイミングだったとさらりとコメント、駒田メネットのお支えと合わせてのお祝いとさせて頂きました。EMC委員長宮岡メンの司会にて市川将来さん、小俣寛さんの入会式が板村東日本区理事、御園生あずさ部長、野々垣あずさ部EMC事業主査のそうそうたる立会人の元に執り行われ今季4人目、5人

目の入会者をこの記念例会にてお迎えすることができました。

記念公演は葉袋メンによる「ある感染症に勝利した甲府盆地の人々」と題してお話頂きました。風土病として山梨、福岡、広島、佐賀などの県で古くから流行していた日本住血吸虫病を甲府盆地の住民総出で撲滅に取り組んだ成果は「この病気は人々の力で無くす事ができる」という経験を力強く発信し、希望を与えることができ、今流行しているコロナウイルスに対する対策も同様に人々の防止対応にて感染症に勝利できる。重要なのは感染サイクルの途中を「断つ」事であると。現状に即したタイムリーな講演でした。

この30周年記念事業の一つ、IBC(国際兄弟ク

ラブ)締結がオーストラリアのアドレードクラブと実現しました。コロナ禍の中、リモート締結式という新しい形式で、定められた時間に合わせたの試みでしたが、YMCA同盟光永様はじめアジア、区の担当役員のご協力とクラブのIBC担当、米長、清藤両メン、小澤智メン、野々垣徹様による準備にて滞りなく遠方のクラブとの繋がりが実現しました。お互いのクラブメンバーが往来し交流できるようになる事を願う次第です。

米長メンの司会にて、山梨メンの食前感謝の祈祷、標甲府クラブ会長に挨拶と乾杯音頭を頂き開宴、コロナ感染対策にて食事はお弁当形式、お酒も控えめにさせて頂く中、御園生あずさ部長、一井草津クラブ会長よりご祝辞を頂きました。東日本区、あずさ部、関東東部、京都部、日本YMCA同盟、山梨YMCA、の方々、そのほかゲストの皆様をご紹介、今月誕生月の方を祝福、ホストを務める第26回東日本区対大会をアピール、最後に佐藤重良30周年記念例会実行委員長の感謝の挨拶にて閉会しました。